

令和3年度「市町村・インフラ系企業防災関連担当者研修会～3.11からの学び塾」を開催しました（2021/11/4）

テーマ：市町村職員、人材育成、研修、国土交通省東北地方整備局、危機管理、都市整備
場所：オンライン（Zoomによるリアルタイム配信型）

2021年11月4日（木）、令和3年度「市町村・インフラ系企業防災関連担当者研修会～3.11からの学び塾～」を、東北大学災害科学国際研究所と国土交通省東北地方整備局の共同主催により、Zoomによるリアルタイム配信形式で開催しました。

本研修は、東日本大震災当時の緊急対応の最前線における実体験を中心に、震災対応の教訓を改めて学び直すとともに、市町村の災害危機管理、インフラ・ライフライン系企業などに必要な、災害時における活動遂行能力の向上を図ることを目的としております。一昨年は令和元年東日本台風（台風19号）の影響により、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見送りましたが、4回目となる本会は初めてオンライン形式での開催となりました。本研究の企画・調整は、当研究所側は佐藤健教授（防災教育実践学分野）及び丸谷浩明教授（防災社会推進分野）が担当し、危機管理コースのZoomホストと全体進行役を定池祐季助教（イオン防災環境都市創生共同研究部門、防災教育実践学分野・兼務）が、都市整備コースのZoomホスト役を佐藤健教授がそれぞれ担いました。

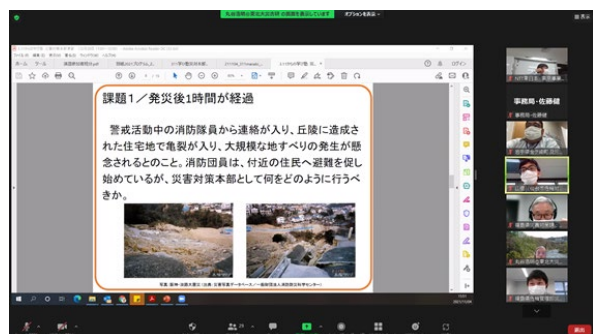
宮城県内を中心とした東北地域からの参加者を想定していましたが、初めてのオンライン開催のおかげで東京や埼玉からの参加もあり、危機管理コース44名、都市整備コース47名の計91名と、今までで最も多くの参加者となりました。演習についても初めてオンラインでの実施となりましたが、Zoomのブレイクアウトルームの機能を利用して実施することができ、準備と運営にあたり伊藤修人研究員（防災社会推進分野）の支援を受けました。

東北地方整備局の稲田雅裕局長及び当研究所の今村文彦所長から開会の挨拶の後、東北地方整備局の藤原裕震災対策調整官による「震災直後からの10年の歩み」と題する特別講義が行われました。当研究所の講師陣は、丸谷浩明教授が危機管理コースの講義「災害法則・業務継続計画」、及び「両コース共通の『災害対策本部運営演習』」を担当し、柴山明寛准教授（災害文化アーカイブ研究分野）が危機管理コースの講義「令和元年東日本台風における丸森町の対応とその教訓」を担当しました。加えて、姥浦道生教授（空間デザイン戦略研究分野・兼務）が都市整備コースの講義「復興まちづくりから得られた今後の防災まちづくりへの教訓」を担当しました。これまで閉会式で授与しておりました受講修了証は、後日各受講者へ発送しました。

事後アンケート結果から、「震災時の初動や大局を見据えた方針など、非常に参考になる研修内容でした」という感想や、ほとんどの受講者より「同僚への受講を奨励したい」との回答を得ました。その他いただきましたご意見等も、次年度以降の研修に活かしていきたいと思っております。



講義の様子



演習の様子

文責：佐藤 健（防災教育実践学分野）、定池祐季（イオン防災環境都市創生共同研究部門）、丸谷浩明（防災社会推進分野）、柴山明寛（災害文化アーカイブ研究分野）